

〔 園 芸 〕

サトイモの早出し栽培に関する研究

第1報 植付時期と保温の方法について

故後 藤 道 徳・中 原 浩 二・江 藤 博 六
(宮崎県総合農業試験場)Late GOTŌ, M., NAKAHARA, K. and ETŌ, H.
Studies on the Earlier Cropping of Taro Tubers.
(I) On the Date of Planting and Protecting Method.

早掘サトイモをマルチ栽培する場合の植付時期や、早期により多収をあげるための保温の方法について検討したので、その結果の概要を報告する。

(1) 試験方法の概要

1) 植付時期試験 試験区別 ①4月5日植トンネル, ②4月15日植マルチ, ③4月25日植マルチ, ④4月25日植露地 栽植密度 トンネル=畦巾150cm株間20cm(2条), マルチ, 露地=畦巾100cm株間30cm(2条)(いずれも660株/a)

2) 保温方法試験 保温の方法 ①トンネル, ②トンネル+マルチ, ③マルチ 植付時期 4月5日(標準として4月18日植マルチ) 栽植密度, 植付時期試験に同じ。

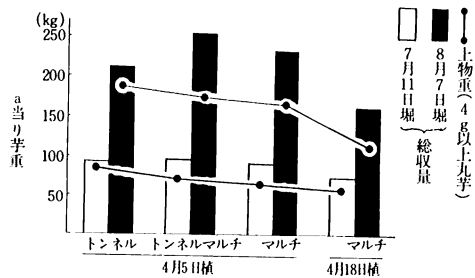
※供試品種は石川早生(1.5~2葉の催芽芋)

(2) 試験結果および考察

植付時期試験ではトンネル区の初期生育が最も良く、マルチ区では植付の早いほど良かった。しかし、初期生育のおう盛なトンネル区はトンネル除去(6月10日)後、露地区と同じ条件となるため、後半の生育はマルチ区がまさるようになり、収量は第1図に示すように総芋重は7月13日、8月16日掘とも4月15日植マルチ区が多くなった。また、マルチ区で

は4月25日植より4月15日植がいずれも多収となり、早植ほど有利であると思われた。

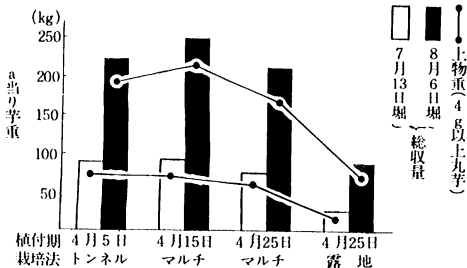
保温方法試験ではマルチ区で植えいたみがあり初期生育がやや劣ったが、トンネル単用区では植えいたみもなく初期生育は良かった。しかし、トンネル除去(6月10日)後はトンネルマルチ併用区の生育が最も良くなった。収量は第2図に示すが、4月5日植の7月11日掘では総芋重にほとんど差がなく、トンネルマルチ併用区がやや多かった程度であった。しかし、8月7日掘になると総芋重の最も多いのはトンネルマルチ併用区、次いでマルチ区、トンネル区の順になりトンネルマルチ併用により初期生育をおう盛にすると収量も多く、1個重も大きかった。



第2図 保温の方法別収量

(3) 要 約

サトイモのマルチ栽培では早植ほど多収となるが、マルチ単用の場合は降霜による障害を考慮すると一般には4月中旬が安全と思われる。しかし、それより早く植付ける場合、トンネル単用では増収効果が期待できないので、トンネルにマルチを併用するのが有利と思われる。



第1図 植付時期別収量